

苫小牧市立清水小学校学校便り

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@city.tomakomai.hokkaido.jp
第 8 号 平成 28 年 1 月 22 日発行

朝の光景

校長 一谷 浩之

朝 7 時 45 分に玄関を開錠するのは校長と教頭の役目としてしています。元気に登校してくる全校児童と挨拶を交わし、一人一人の表情を確認しながら 1 日のスタートを切ります。初雪が降ってからは朝の寒さも一段と厳しく、子ども達の吐く白い息とともに朝の挨拶を交わしているところです。

今年は玄関の前に留まらず、校門前やしみず保育園前まで出て行き挨拶をすることが多くなりました。子ども達がどんな様子で登校するのかがよく見えるからです。歩道の歩き方、横断時の安全確認の仕方、友達関係の様子…。子ども達を見ていると毎朝楽しくて仕方ありません。

子ども達は私の姿を認めると遠くから大きな声で「おはようございます」を言います。毎日の習慣です。そんな中、今年度に入ってしみず保育園前の公道では、ちょっとした変化が起こっているのです。保育園に送られてくる園児達が私に挨拶をするようになりました。めんこいめんこい「おはようございます」です。それと一緒に送りに来た保護者の皆さんも私と挨拶を交わすようになりました。毎日のことですのでそこから世間話が生まれてくることもしばしばです。次に嬉しいことは登校する東高校の生徒が私と挨拶するようになりました。野太い声の野球部関係と思われる学生との挨拶も面白い光景です。私にとっては小さな革命です。社会の変化を感じます。実はこの革命の戦士は清水小学校の子ども達にあることは言うまでもありません。子ども達の毎日の挨拶が、それを見ている周りの人たちを変えたのです。社会は変えることができることを証明してくれたのです。

昨年度に比べても子ども達の挨拶はしっかりと躡られている感じがします。挨拶は心と心をつなぐコミュニケーションツールです。我々大人はしっかりと躡ってあげなくてはなりません。「まずは教える。形から入る。そして自分のものとする。」即ち躡です。

しかしながら、子ども達全員が気持ちの良い挨拶が出来ているとは言い切れません。まだまだ我々大人の指導力が試されているような気がします。以前「最近の子は挨拶が出来ない」と学校評価アンケートに書かれていたことがありました。挨拶が出来る子どもに育てるのは学校・家庭・地域、即ち我々大人なのです。心からご協力をお願いする次第です。